

(別 紙)

平成29年度 動物愛護管理功労者 大臣表彰の受賞者

受賞者	タマイ キミヒロ 玉井 公宏 (61歳) 和歌山県在住 公益社団法人 和歌山県獣医師会 会長
功績概要	○昭和60年～平成5年に、ローカルラジオで家庭動物の適正飼養の帯番組を企画・出演するとともに、和歌山県獣医師会主催の動物愛護週間行事や、和歌山県主催の動物愛護週間行事の企画・運営に携わり、県民の動物愛護意識の高揚や適正飼養知識の普及啓発に貢献してきた。 ○平成20年には、和歌山県動物愛護推進協議会会長として県の災害時の動物救護活動を始め動物愛護管理推進計画の策定に尽力した。 ○平成28年には、県獣医師会において地域猫への不妊去勢事業を県から受託できる体制を整備し、事業実施により猫の殺処分数の減少に貢献した。

受賞者	ヒライ ジュンコ 平井 潤子 (57歳) 東京都在住 NPO 法人 アナイス代表、公益社団法人東京都獣医師会 事務局長
功績概要	○平成12年の三宅島噴火災害で動物救護活動に参加した後、「人と動物の防災を考える市民ネットワーク アナイス」を立ち上げ、活動を開始。被災地の実態調査等を継続的に実施・整理分析し、講演会や大学での講義等を通じて、災害に備えることの重要性について普及啓発してきた。 ○ペットとの同行避難を推奨するとともに、「動物愛護対策」から「人道支援」へと自治体での体制整備の切り口を変えていくことで、検討を進めやすい環境を整備した。 ○三宅島噴火災害、新潟中越地震、東日本大震、熊本地震では、救護活動本部の立上げ、シェルター設置、ボランティア活動のルール作り等に従事した他、平時からの自治体での人材養成のプログラム整備等に携わってきた。 ○マイクロチップの機能や効果、全国自治体へのアンケート調査による普及率や飼主の意識等の詳細を示したマイクロチップ専用サイトを先駆けて開設。ペット保険会社のテキストに引用されるなど、マイクロチップに関する正しい情報提供に貢献した。

<p>受賞者 (団体)</p>	<p style="text-align: center;">フクオカケンジュウイシカイ 公益社団法人 福岡県獣医師会 (福岡県)</p>
<p>功績概要</p>	<p>○長年にわたり、福岡県と連携しながら動物愛護週間事業、学校飼育動物支援事業、動物愛護情報誌発行、地域猫活動支援事業などの動物愛護推進事業に積極的に取り組み、動物愛護管理行政に大きく貢献するほか、独自に地域の要望により所有者不明猫の避妊去勢を行う「あすなろ猫事業」を実施し、地域における猫の過剰繁殖問題の解決に貢献している。</p> <p>○平成 25 年には、全国初となる災害時派遣獣医療チーム (VMAT) を設立し、平成 28 年の熊本地震の際に被災地に派遣。ペットに係る相談対応や被災動物の治療などの支援活動は、メディアにも大きく取り上げられた。平成 28 年からは VMAT とともに避難所やシェルター等で活動する災害時動物救護サポーター (ARS) の認定講習会を開催している。</p>